平成２８年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立東小沢小学校　教諭　瀬尾　洋一

１　派遣期間　平成２８年７月３１日（日）

２　研修先　　学校名（会場名）筑波大学附属小学校
所在地　〒112-0012　東京都文京区大塚 3-29-1
http://www. elementary-s.tsukuba.ac.jp

３　研修内容

昨年は、筑波大附属小学校の小学校授業づくり研究会に参加し「価値判断する社会科」について研修する機会を得た。今回は、2015 年より同校の社会科教育研究部の由井薗、粕谷の両教諭が中心となって立ち上げた「小学校社会科授業づくり研究会」の第 5 回大会に参加させていただいた。

今大会のテーマは、「社会科におけるアクティブ・ラーニング」で由井薗、粕谷両教諭の提案授業 2 本とシンポジウム「アクティブになる学習問題をどう作るか」が主な内容である。

社会科の授業をアクティブにするポイントとは何か。価値判断する社会科とのつながりは何か研修報告する。

（1）アクティブ・ラーニングの視点から見た社会科の授業づくり

アクティブ・ラーニングが目指すのは、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びである。グローバル化と情報化によって変化の激しい予測困難な時代を豊かに生き抜いていくためには、「問題解決学習の充実」が求められる。したがって、社会科の授業では、子どもたち一人ひとりが社会事象に対して問いをもち、ねばり強く調べ、仲間との議論を通して多面的に考え、そしてまた問いをもつ…という「問い続ける」深い学びを目指していかなければならない。そのための手立てとして今大会では、①子どもが本気になる学習問題の設定、②連続性のある学習過程、③確かな社会認識に基づいた価値判断の３つが提案された。

「問い続ける力」とは
○自ら社会事象に問いかけ、その問題を解決するために、既有の知識や経験を根拠に、資料収集や仲間との議論を通して、多面的に考え、ねばり強く問題を探求していく力。
○「みんなが幸せになるためにどうすればよいのか」自らの生き方を問い続け、よりよい社会形成の参画につなげる力。

① 子どもが本気になる単元を貫く学習問題の設定

社会科の授業では、導入→展開→まとめのサイクルで単元の学習が進んでいくパターンが一般的である。こうした展開で問題となってくるのは、「自分たちの問題」という意識の希薄さである。導入段階で子どもたち一人ひとりの疑問を一つの大きな学習問題として設定することが難しいと感じている教師が少なくない。

単元の導入段階で設定する学習問題は、子どもたち一人ひとりの「疑問が一点に集まってくる問題」がふさわしい。そのための手立てとして、こどもたちから「えっ」「なぜ」という声が湧き上がってくるような「社会事象とのインパクトのある出会い」を演出することが大切である。

② 連続性のある指導過程

問題を追及する際、問題意識が連続していくことが望ましい。「導入―展開―まとめ」というサイクルで毎時間教師がまとめてしまったら、子どもは教師からの問いかけを待つ受身となり、主体的・協働的な学びを具現化し、「問い続ける力」を育むことはできない。

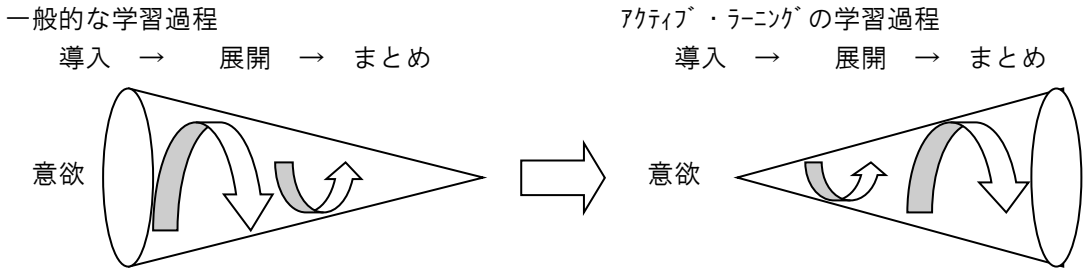
授業は、「問題解決で始まり、新たな問題で終わる」という指導過程が望ましい。そのためには、事実をじっくりと見つめ、その過程で見出した「自分たちの問題」について解決の見通しをもたせた上で授業と授業の間に子どもの調べ学習を入れていくことが重要になってくる。

③ 確かな社会認識にもとづいた価値判断

社会科におけるアクティブ・ラーニングが目指すのは、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びである。学習のスタートは、「社会事象との出会い」から「自分たちの問題」を見つけることから

始まる。その問題の解決方法を模索することを学習の中心に位置付け、相互行為による話し合いで社会的価値である社会認識へと発展させていくことを目指している。そうして身に付けた社会認識をもとに問題解決の方法の価値判断をすることが最終的な学習のねらいとなってくる。

＜学習過程と意欲のイメージ図＞



（2）社会事象との出会いの演出の事例

ア　第3学年スーパーマーケットではたらく人々
宮城県秋保温泉の「スーパーさいち」の事例

たくさんのお客が集まっているね？

さいちには、何かひみつがありそうだ。

何の変哲もない地方のスーパー…　　開店

スーパーさいちにたくさんのお客が集まるひみつは何だろう。

イ　第5学年わたしたちのくらしと工業
高度経済成長と公害の事例

病気の人の手みたいだ。

どんな病気だろう？

指が曲がって固まっている。

工場の排水に毒が入ってたことが原因だ

なぜ排水をすぐに止めなかったのだろう？

水俣病患者の手をアップで提示

水俣病とその原因について知った後、チッソが排水を止めるまで12年かかったことを知る。

なぜ工場の排水を止めることができなかったのだろう。

4　感想と今後の課題

今回の研究大会を通して、社会科授業づくり研究会の考える授業づくりは、「思考」にあると捉えることができた。子どもたち一人ひとりの思考とその交流をアクティブにすることがアクティブ・ラーニングである。社会科の学習する対象は，広く社会そのものである。したがって、取り上げる社会事象は、日々刻々と変わりゆく世の中の動きに目を向け、子どもたち一人ひとりが本気で考え追求しようとする学びのエネルギーを高めてやることが重要である。そして、忘れてはならないのは、子どもたちに出会わせる社会事象は、「現実性」だけでなく「人間性」にも目を向けていかなければならないということである。なぜなら、世の中の全ての社会事象の裏には、人々の生きる姿、くらしの在り方、思いや願いが込められているからである。